1 自己評価及び外部評価結果

（ユニット名　グループホームやまなみ　）

事業所番号	0692500051		
法人名	特定非営利法人やまなみ		
事業所名	グループホームやまなみ		
所在地	山形県最上郡最上町向町5-10		
自己評価作成日	平成26年11月1日	開設年月日	平成22年11月1　日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。（↓このURLをクリック）
（公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。）

基本情報リンク先	http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3―31		
訪問調査日	平成　27年　12月　11日	評価結果決定日	平成　28年　1月　4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

1．食事の献立、内容、バランス等、今までの食事づくりを職員みんなで、振り返り、その改善と充実に取り組む。
2．町内の開業医が訪問診療を開始したのに伴い、いよいよ「看取り指針」に基づいて、ホームでの看取りについて職員の学習を重ね、いつでも対応できる体制を構築していきたい。
3．運営推進会議に家族も参加していただいているが、もっと家族との関係づくりを強化するため、「家族会」づくりを通じて、職員、法人理事会との懇談をまず年数回程度行っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域の大勢の人がNPO法人やまなみの会員となり、高齢者の介護・福祉に貢献し、認知症介護を地域に開かれたものにすることを目指してグループホームを運営しています。そして利用者が今まで通り普通の暮らしが送れるよう職員と一緒に支えています。ミニコンサートでは他事業所利用者と一緒に楽しみ、合唱サークル「絆」と歌を口ずさみながら喜び、季節に合わせて紅葉狩りやバラ公園にも出かけています。本年は食事づくりの充実・改善に取り組み全員で合評して一層の充実向上に取り組んでいます。一人ひとりが慣れ親しんだ暮らしを継続することを尊重し、出来る能力を活かしながら満足して安心した生活が送れるよう常に考え、寄り添いながら支援している事業所です。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1．ほぼ全ての利用者の
			2．利用者の2/3くらいの
			3．利用者の1/3くらいの
			4．ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1．毎日ある
			2．数日に1回程度ある
			3．たまにある
			4．ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている　（参考項目：38）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
		○	3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1．ほぼ全ての家族と
			2．家族の2/3くらいと
			3．家族の1/3くらいと
			4．ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1．ほぼ毎日のように
		○	2．数日に1回程度
			3．たまに
			4．ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1．大いに増えている
			2．少しずつ増えている
			3．あまり増えていない
			4．全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1．ほぼ全ての職員が
			2．職員の2/3くらいが
			3．職員の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての利用者が
			2．利用者の2/3くらいが
			3．利用者の1/3くらいが
			4．ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1．ほぼ全ての家族等が
			2．家族等の2/3くらいが
			3．家族等の1/3くらいが
			4．ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1　自己評価及び外部評価（結果）」　2015年度

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	**○理念の共有と実践** 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿って介護している。なるべく本人の話しに合わせることにより安心して生活できるよう配慮している。	認知症介護について勉強している中で常にホーム理念を振り返り、一人ひとりの変化や経過を話し合い、安心して慣れ親しんだ生活が送れるよう、利用者に寄り添い支援している。	
2	(2)	**○事業所と地域とのつきあい** 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のおまつりや、コンサート・ホームでのイベントなどで地域の一員として参加し、楽しみながら交流している。	NPO法人やまなみの会員からボランティアとして協力を得、日頃より地域行事への参加や外出、ミニコンサートの開催や合唱サークル「絆」と一緒に歌って楽しんでいる。2ヶ月毎、町全域に会報「やまなみ」を配布し生活の様子や活動を発信している。	
3		**○事業所の力を活かした地域貢献** 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で定期的に会報を発行して、地域の方々に、ホームの生活や活動などを発信している。		
4	(3)	**○運営推進会議を活かした取組み** 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ケ月に1回欠かさずに開催している。地域の人々や知見者に参加してもらい、意見をいただいている。	現状や活動内容の報告と共に、13名のメンバーで毎回テーマに基づき意見を交換しながら議論し、取り組みについて理解を深めてきている。法人理事会、職員会議、そして運営推進会議で話し合うことで事業所のサービス向上に努めている。	
5	(4)	**○市町村との連携** 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の健康福祉課に会報をとどけている。包括支援センター長に運営推進会議に出席してもらっている。	町役場内にある地域包括支援センター長が運営推進会議に出席し意見交換をしている。国や県・町の介護や認知症等福祉事業について情報交換し協力関係を築いている。	
6	(5)	**○身体拘束をしないケアの実践** 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束はしていない。できるだけ寄り添って話をしたり、散歩にでかけたり、入居者さんの思いを受け入れたいと心がけている。日中は玄関にもカギはかけていない。	事業理念の中に「身体的、精神的な拘束を行いません」と明記して、職員の学習会の議題として話し合い共有している。利用者の思いを受け止め寄り添うことで、自由に行動出来るよう見守っている	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員ミーティング等で話し合ったり、乱暴なことばを使用しないよう心がけている。入居者の状態によって、つい言葉が荒くなったり、大きい声が出てしまうことがある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者もいるので、これから学習して行く必要がある。本や資料がホームにあり、いつでも目が通せるようになっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、運営規程、利用契約書を読み上げて説明し、契約している。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、家族に利用者の生活の様子を写真入りのたよりにして届けている。来訪時気遣いなく気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。	「家族会」の開催計画は進捗していないが、通院時の家族付き添いや利用料の納入などで出来るだけ家族等に来訪してもらい、利用者の様子を見てもらっている。また、毎月個人ごとのお便りを渡しながら意見や希望を聞き取り支援に繋げている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回以上、職員ミーティングを行い、情報を共有し、意見を出し合い、話し合っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備	昨年より給与体系を見直し、給与水準を向上させた。職員の休憩時間がなかなか取れないのが実情だ。		
13	（7）	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加したり、月1回の全職員の学習会を定例化している。職員は外部での研修を望んでいる。	職員会議の中だけでなく月1回学習会を行い、認知症の介護・リスクマネジメント等のテーマをもとに研修を行っている。一つのテーマを数回に亘り話し合うことで職員それぞれのレベルアップがうかがえる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	最上地区GH連絡会に施設長が参加している。県内の交換研修に参加したり、宮城県大崎市のGH、町内のGH、小規模多機能事業所ともコンサートを通じて交流している。	7事業所が参加する「おらだの会」で管理者同士の交流で情報交換を行い、他事業所の取り組みから学ぶこともある。またミニコンサートでは他グループホームや小規模多機能事業所の利用者と一緒に楽しんでいる姿が見える。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	朝夕2回の申し送りを開所から続けている。入浴介助や就寝時などに、話しをかけて要望などないか話しかけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所希望者には必ず見学に来てもらって、サービス状況を見てもらい、不安のないよう説明し、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員全員で、利用者をよく観察し、情報を共有して、サービスにつなげている。又、細かく記録し、申し送りに時間をかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんが手伝えそうなことはやっていただいている。（洗濯物たたみ、野菜の皮むき 等々）		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく面会にきていただいたり、毎月おたよりを出して、家族にとどけている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来てもらったり、電話や手紙のやりとりもしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	円になり、ボール遊びをしたり、運動をしたり、一つのことに皆で共有しあえる雰囲気づくりを心がけている。時々席替えなどもして、利用者間の交流をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方の家族が、野菜を持って来てくれたり、たびたび来所が続いている。運営推進会議のメンバーになっていただいた家族もいる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人で新聞をとったり、好きな音楽をかけたり、好きなテレビ番組を見たりしている。業務に追われ、介護者本位になってしまう時もあるが、ならないよう努めている。	寄り添いながら支援している中で、入浴や食事の時など1対1になる時間に把握できる場面が多く、聞き取った思いや意向は申し送りや日誌等で全員が共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアカンファレンスで、これまで本人から聞きとった生活歴や好きなことなどを共有して話し合っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日観察し、バイタルチェック2回を行い、記録に合った健康状態を把握して生活支援を行っている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスやサービス担当者会議で、本人と家族と相談しながら、介護計画を作成している。	担当者の現状把握・評価を基に利用者から聞き取った思いや意向を家族等と話し合い、本人本位の介護プランを作成している。状態の変化には柔軟に対応し見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや連絡事項を記入したふせんを貼り、伝えることで情報を共有している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化（小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載） 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでの年3回のミニコンサートの開催で、地域の人々との交流、他事業所の入居者さんと交流している。地元のまつり、いも煮会など地域の行事に積極的に参加している。		
30	（11）	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は従来のかかりつけ医を継続している。通院は、なるべく家族の付き添いをお願いしているが、困難な時は職員が同行している。	家族との絆を大切に捉え、通院の際は付き添いをお願いし、事業所とのコミュニケーションを図る良い機会にしている。緊急時や夜間急変した時はマニュアルに沿って対応できるように研修等で身に付け安心に繋げている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りに週2回出てもらっている。情報を共有し、専門職として相談したり、アドバイスをもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	サマリ(症状経過)を利用して医療機関との情報共有に努めている。		
33	（12）	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	7月に初めて看取りました。事前に看取りについて学び、主治医との連絡、意思統一を重ねて実施された。後日、初めての看取りを職員間、法人理事会で検証を行った。	重度化した場合は「看取りと重度化に関する指針」を利用者・家族等に示し話し合いをすると共に、同意書で確認を取りながら揺れ動く家族の思いに寄り添い、出来る限りのケアで支えている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応と事故防止のマニュアル「安全管理実践帖」を繰り返し目を通し、。AED、人工呼吸等の外部研修にも参加している。		
35	（13）	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜、1人勤務時の火災を想定した避難訓練を年2回実施している。地域の方々にも参加してもらっている。	避難訓練には防災業者に立ち会ってもらい利用者全員防災頭巾を着用して実施している。検証時には参加者から意見をもらい反省点を次に繋げ、備蓄や除雪等にも万全を尽くして災害に備えている。	年2回の避難訓練に限らず会議等で災害時の心得や手順等の確認をすると共に非常持ち出しなども整え、日頃から防災意識を高めることに期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	（14）	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	おちついて、入居者に接するように心がけ、なるべく、わかりやすい言葉で話しかける努力をしている。人生の大先輩であることを忘れずに。	人権の問題については常に議論を交わしており、理念に掲げているように個人として尊重し、その方に合ったその人なりの生活が送れるように支援している。また守秘義務や書類等の管理に十分配慮しプライバシーも確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なるべく入居者さんに寄り添い、コミュニケーションをとっているが、希望通りにいかない時もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	まだまだ職員の都合を優先させてしまうことが多いが、1日の過ごし方が毎日そう変わらない。ほとんどの入居者が一日リビングで過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床後の身だしなみには気をつかっている。化粧する入居者もいる。髪は毎日とかしてやっている。		
40	（15）	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のものを取り入れた献立を作っている。味付けや、食器洗いなどを職員と一緒にしている。	利用者が毎回楽しみにしている食事は、安全・安心な食材にこだわりバランスの良い献立で提供している。今期は「食事内容の充実・改善・見直し」を目標に掲げ皆で評価し合い、より一層の充実と向上を図っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者さんに合わせ食事量を調整し、食べやすいようにトロミをつけたり、キザミ食にしている。水分量は合計を出して、次の介護につなげている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをしている。就寝前は義歯を洗浄している。		
43	（16）	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの状態に応じて、声かけ、誘導している。排泄状態を毎日記録している。	職員は排泄チェック表や利用者の行動パターンを把握してその方に合った声掛け・誘導に心がけている。また、トイレは両側の肘掛の他に前にも摑まる手すりを直置きして立ち上がりや介助に使い易く整備している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ﾖｰｸﾞﾙﾄを毎日摂取てもらっている。お腹をマッサージしている。便秘薬の調整もしている。		
45	（17）	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの希望に応じるのは難しいが、毎日身体の清潔保持ができるように、1日おきに入浴を行っている。	利用者の希望する時間帯での入浴を課題としながら、これからも職員体制を整えつつ取り組んでいきたいとしている。入浴時は転倒防止に気を付け、利用者と色々な話をしながらゆっくりとした時間を作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は就寝時間が早くなってきているので、ゆっくり休めるよう、室温や寝具の調整をしている。寝れない人には睡眠パターンを記録し、対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルがあり、どんな薬を服用しているかわかるようにしている。薬が変わったり、追加の場合には、申し送りで確認し、誤薬のないよう服薬まで3回確認している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外気浴、おやつ作り、歌をうたったり、CDを聴いたり、ぬり絵をしたり、思い思いに楽しんでいる。		
49	（18）	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が付き添い、散歩や地域の行事、買い物、ドライブ、コンサート、花見、紅葉狩り、外食などによく出かけている。	季節毎に皆で出かける機会を多く作り、ボランティアの手を借りながら安全にも配慮して活動している。たくさんの人との触れ合いが刺激となり利用者の生き生きとした場面に繋がっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理、会計ができる方がほとんどいない。お金の所持はしていない。認知症が進み、難しくなってきている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の都合のいい時間に合わせて職員の援助で電話をしている。東京にいる娘さんからよく電話が来る。		
52	（19）	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方が1日をリビングで過ごしている。共用スペースには絵が何枚もあり、写真も季節ごと入れ替えている。日当たりのいいリビングは安心感をもたせ、秋にはリビングの外はソバの花でうめつくされされる。	木のぬくもりが暖かいリビングからは蕎麦畑など季節の移ろいが眺められ、一人ひとり思い思いの場所で寛いでいる。のんびり穏やかに過ごせるように絵画などで落ち着いた雰囲気に心がけ、行き届いた清掃や床暖房など居心地よい生活ができている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1日をリビングで過ごしている方が多く、席の場所はなるべく気の合った人同士で座れるように工夫している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	（20）	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたものを持ち込んでもらっている。整理タンス、イス、机、写真、楽器など、仏壇なども持参している人もいる。	広めの部屋にベッド以外は私物を持ち込んで、音楽が好きな方は自前の楽器を並べ、整理ダンスなどのレイアウトも自由にその方らしい居室づくりをして自分の家として過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、リビングに手すり、柱の角にはラバーを張り、リスクをなくしている。		